

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターゆらの里

作成者: 家澤浩司

作成日: 2022年 12月 20日

運営推進会議における評価実施日: 2023年 2月 20日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No.                      | タイトル               | 評価項目  | 事業所<br>自己評価 | 記述  | 運営推進<br>会議<br>における<br>外部評価 | 注   |
|--------------------------|--------------------|---|-------------|---|----------------------------|---|
| <b>I. 理念・安心と安全に基づく運営</b> |                    |   |             |   |                            |   |
| 1                        | 理念の共有と実践           | 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                           | B           | 毎日申し送り時に読んでいるが、その場に出ない勤務もある。                                |                            |   |
| 2                        | 事業所と地域とのつきあい       | 事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している     | D           | コロナ禍により自粛中。ゆらの里通信の配布、文化祭での創作物の展示等間接的な発信はしている。               |                            |   |
| 3                        | 運営推進会議を活かした取り組み    | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている             | D           | コロナ禍により自粛中。2ヶ月に1度、活動状況報告書、ゆらの里通信を配布している。                    |                            |   |
| 4                        | 市町村との連携            | 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる               | C           | 2ヶ月に1度活動状況報告書、ゆらの里通信を提出、意見を伺っている。                           |                            |   |
| 5                        | 身体拘束をしないケアの実践      | 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | B           | 定期的に職員研修に取り入れ、意識の向上に努めている。                                  | A                          | コロナクラスター発生時の居室待機は必要な対応                              |
| 6                        | 虐待の防止の徹底           | 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている      | B           | 高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法を定期的に職員研修に取り入れ、意識の向上に努めている。                | A                          | 法律に基づいてされているのであればいいのでは                              |
| 7                        | 権利擁護に関する制度の理解と活用   | 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している          | B           | 現場には関係が少ないが研修に取り入れることを検討する。                                 |                            |   |
| 8                        | 契約に関する説明と納得        | 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を回っている                         | B           | 契約前には契約書を読み込んで理解し、説明後同意書を頂いている。                             |                            |   |
| 9                        | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 | 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                             | B           | 苦情受付窓口を契約時に説明している。不定期だが本社より家族様にアンケートを実施している。                | B                          | アンケートの回答数5/18 回答を促してみてもいいのでは                        |
| 10                       | 運営に関する職員意見の反映      | 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている   | C           | 慢性的な人員不足があるが、上手くいかないのが現状。                                   |                            |   |
| 11                       | 就業環境の整備            | 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている   | C           | 給与については研修や資格によって上がっていく制度があるが、少ないと聞くこともある。勤務時間等は職員の希望で決めている。 | B                          | 職員のやりがい、向上心を持てる職場環境を作っておられる。その分給与に反映されているか？という思いはある |
| 12                       | 職員を育てる取り組み         | 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | B           | 府や市から研修の案内が来るので職員に勧めたり、職員研修にてケアのノウハウを勉強等している。               | A                          | 市からの研修案内の周知や参加への配慮をされており、職員の能力向上等育てる取り組みを実施されている    |
| 13                       | 同業者との交流を通じた向上      | 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | D           | コロナ禍により自粛中。   |                            |   |
| 14                       | 本人と共に過ごし支えあう関係     | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                      | B           | 理念に「馴染みの人との暮らしを共に作る」という箇所があり、意識している。                        |                            |   |
| 15                       | 馴染みの人や場との関係継続の支援   | 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                                     | B           | コロナ禍により難しい面があるが、少し緩和され、リモート面会や条件付きの面会も実施している。               |                            |   |

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターゆらの里

作成者: 家澤浩司

作成日: 2022年 12月 20日

運営推進会議における評価実施日: 2023年 2月 20日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

| No.                          | タイトル                 | 評価項目   | 事業所<br>自己評価 | 記述  | 運営推進会議<br>における<br>外部評価 | 記述  |
|------------------------------|----------------------|--|-------------|---|------------------------|---|
| II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント |                      |  |             |   |                        |   |
| 16                           | 思いや意向の把握             | 一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。   | B           | 一人一人、出来る事、したいことを把握し、実現出来る様努めている。                            |                        |   |
| 17                           | チームでつくる介護計画とモニタリング   | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している                    | B           | 変化があった場合、家族様や職員と話し合い、都度検討している。                              | A                      | 相談して計画を立てているのであればAでいいのでは  |
| 18                           | 個別の記録と実践への反映         | 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                                     | B           | 常時個別記録に変化等記入、会議等で共有、援助方法を検討している。                            | A                      |   |
| 19                           | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 | 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                                    | B           | 入院後等、状態が変わった時等訪問看護やリハビリステーションに相談、実地指導して頂いている。               |                        |   |
| 20                           | 地域資源との協働             | 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                  | B           | コロナ禍で出来ない事があるが、訪問診療、訪問看護、訪問歯科、訪問理美容、等は継続して来て頂いている。          |                        |   |
| 21                           | かかりつけ医の受診支援          | 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                | B           | 本人様や家族様と相談の上、訪問診療や市立病院への通院を行っている。                           |                        |   |
| 22                           | 入退院時の医療機関との協働        | 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | B           | 訪問看護様は週1回の訪問、24時間の相談可能、市立病院へ定期的な通院や入院時の対応は行っている。            | A                      | 活動状況報告書から訪問看護や定期通院など対応されていることがわかります。共有、連携して対応されているのであればいいとおもいます |
| 23                           | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  | 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる    | B           | 症状の変化に伴い、家族様に連絡、相談を行っている。終末期は症状に応じて密な相談の上当施設や市立病院にて看取り実績あり。 | A                      | その方に応じた看取り方法を家族さんや病院、訪問看護とよく相談してされている                           |
| 24                           | 急変や事故発生時の備え          | 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | C           | 医療行為は出来ないで上司や訪問看護様に連絡、指示を仰ぐ様になっている。                         |                        |   |
| 25                           | 災害対策                 | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている                                      | B           | 当施設設立10年間に渡って継続して年2回避難訓練を行い、新規職員には入社時に説明は行っている。             | A                      | 活動状況報告書や、ゆらの里通信から訓練をされていることがわかります。自治会でも出来る事があると思うので参加してみたい      |